

日時 2022年 6月 9日(木) 第4校時
対象 [REDACTED]
授業者 [REDACTED]
場所 [REDACTED]

1、 単元名

教科書 Heartening English Communication I

Lesson 5 "Canned Bread to Feed the World", Part 1

2、授業観について

(1) 教材観

本教科書の題材は、スポーツや動物、文化など生徒が親しみやすいものから環境、食糧問題、経済など世間で注目されているSDGsと関連したテーマが選ばれている。形式としては、物語文、説明文、意見文、そして論証文と幅広く扱う。各Lessonの導入では、テーマについて話し合う問いや活動目標、テーマについてのリスニングが組み込まれている。そして、Lessonごとの各Partは1ページで構成されており、本文、新出単語、本文に関する問いが掲載されている。章末では、本文の概要を確認する問いやイラスト・キーワードから本文をリテリングする活動、本文で扱われた事項の復習がまとめとして扱われる。

(2) 学習者観

英語コミュニケーションIでは、各HRにて授業を行っている。予習(新出単語の意味調べ・本文を読むこと・予習プリントの下線部訳など)を丁寧にこなし、授業に対して積極的に取り組む生徒が多い。多くの生徒には基本的な語彙や文法事項の定着が見られるが、それらが身につけていない生徒もいる。アウトプットの活動の際には、ペアワークを意欲的に取り組む生徒がほとんどである。なお、このクラスは授業者が担任をしているクラスである。

(3) 指導観

英語は試験で使うという認識が強いため、アウトプット活動のうち特にスピーキングに慣れていない生徒が多い。試験で使えるようにすることはもちろんであるが、英語は日本語と同じく言語であり、意思疎通を図るためのものであるという意識を持ってもらうためにも、本文で扱われている文法の定着に加え、多くのアウトプットを通して英語に対する抵抗感を払拭したい。また、世界で話題になっている事象に対して、自分の考えを持ち、英語で自分の考えを述べられるようになることを目指している。授業では授業者が話す時間を短く設定し、生徒に発話を促す機会をより多く取り入れることで、知識の定着や発信力の向上に努めたい。

3、単元の目標

まず、英語コミュニケーションIでは、生徒のアウトプットの活動を重視して行い、英文を読み、英語を話すこと・聞くことに対する生徒の抵抗感を薄めることが1つの目的である。そして、この単元の目標としては、不定詞を理解し使えるようになることである。不定詞には名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、知覚動詞・使役動詞、動詞+目的語+to不定詞、その他に不定詞を伴う重要表現などバリエーションが豊富にある。不定詞は論理表現Iでの既習事項でもあるため、知識が活用できているかという視点も含めて授業を行う。また、本文は缶詰パンを扱っており、缶詰パンの歴史や創意工夫、缶詰パンが食べ物に困っている人を救うという内容であるため、食糧問題について自分の意見を述べられるようになることが目標である。

4、単元の指導計画（全10時間）

- 第1時 Lesson 5 の導入、Part 1 本文の内容理解とアウトプット（本時）
- 第2時 Part 2 本文の内容理解とアウトプット
- 第3時 Part 3 本文の内容理解とアウトプット
- 第4時 Part 4 本文の内容理解とアウトプット
- 第5時 単元のまとめ、リテリング活動等

5、本時のねらい（全5時間中の第1時間目）

Lesson 5 Part 1 では、缶詰パンが作られるようになった背景とともに論理表現 I での既習事項である不定詞の確認を行うことで文法の定着を狙う。また、本文の内容理解では、生徒がつまづきそうな箇所を中心にペアワーク等で理解を深めることで本文の構造の理解度を高める。授業後半では、いくつかの種類の音読方法やサイトトランスレーションなどのアウトプットの活動を通し、本文を音読・暗唱する機会を与えることで生徒の内容理解やスピーキング力、リスニング力向上に努める。

6、準備物

クロムブック、プロジェクター、教科書、指導用ノート、音読シート、時計

7、評価

【知識・技能】

to 不定詞について用法を理解し適切に読み取り、発信することができる

【思考・判断・表現】

授業で投げかけられた質問に対し、既習事項を活用して答えを考えられる教科書の内容を踏まえて、食糧問題についての自分の意見を述べることができる

【主体的に学習に取り組む態度】

ペアワーク等に積極的に参加し、英語力を高めようとする姿勢が見られる

8、本時の展開（計45分）※チャイムと同時にあいさつ

時間	活動内容	生徒の動き	先生の動き	指導上の留意
(導入) 3分	Lesson 5 導入の動画 内容：缶詰食品はバラエティが豊富にあり、食べやすいことも魅力である。そんな缶詰はヨーロッパで初めて作られ、日本では明治時代に普及し始めた。そして今では、長期保存が可能な缶詰を手に入れることができる。その理由は、中の空気が抜かれていることや缶の素材（本体：スチール、蓋：アルミニウム）にある。そのため、缶詰は世界中で非常食として採用されている。	・ Lesson 5 導入の動画を見る ・ 缶詰の便利なところ、日本で普及し始めたのはいつか、缶詰が腐らない理由を中心に動画の内容をペアで確認	・ Lesson 5 導入の動画を見ることを伝える ・ 缶詰の便利なところ、日本で普及し始めたのはいつか、缶詰が腐らない理由をペアで確認させる ・ 簡潔にどのような内容だったかを確認し、Lesson では缶詰の歴史、工夫、どのように役立っている	・ 缶詰の便利なところ、日本で普及し始めたのはいつか、缶詰が腐らない理由に注目して、生徒に動画を見るように促す

			るのかについて学んでいくことを伝える	
(展開) 4分	新出単語の確認 発音練習 (音源)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで新出単語の意味の確認を行う ・音源に続き、アクセントに注意しながら発音練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ペアで新しい単語の意味を確認してみよう」"Let's check the meaning of new words with your partner"などと促す ・全体を見渡し、ある程度、ペア活動が終了してきたら切り上げる ・音源を使用し、発音練習を始める 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音練習に入る際に、英単語に興味を抱くきっかけとなるように単語の成り立ち (例: baker はパンやお菓子を焼くという意味を持つ動詞 bake に「～に関係する人」を表す接尾辞 er が付け加えられたものである) を教え、アクセントに注意することを促す
1分	本文のリスニング (音源)	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・"Listen carefully, please"と指示を出し、予習内容を思い出してもらおうことも兼ねてリスニングを促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングを通して、予習してきた本文の内容を再確認させる
2分	本文の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・予習で把握した本文の内容をペアと共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ペアで本文の内容を確認しよう」などと促す。 ・ある程度、終了してきたら切り上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで予習内容を共有し、わからない箇所を明確に意識させる
20分	<p>本文の解説</p> <p>第1段落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前置詞 as…～として ・同等比較 as～as…「…と同じくらい～だ」 <p>第2段落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ in 1995 ではなく of 1995 であるのか ・2文目の主語に対する後置修飾 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを取りながら解説を聞く ・質問に対し、ペアもしくは個人で答えを考える <p>A1 前置詞～として</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の解説をデジタル教科書と黒板を使用しながら行う ・おさえておいて欲しいポイントは質問を投げかける <p>Q1 第1段落2文目の as はどう訳す?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書: 赤ペン=意味、青ペン=文法事項、黒板: 黄色=大切なところ

	<p>・ in need の need は動詞ではなく名詞で意味としては困窮、貧困</p> <p>・ be 動詞 + disappointed で「がっかりする」という意味を持つが、disappoint の元の意味に注意</p> <p>・ to hear that は感情の原因を表すため副詞的用法</p> <p>第3段落</p> <p>・ a little while later...しばらくしてから</p> <p>・ 1文目 it=to have only hard biscuits to eat (名詞的用法)</p> <p>・ 1文目 biscuits に対する to eat は形容詞的用法</p> <p>・ would like は want のフォーマルな表現</p> <p>・ 3文目の to 以下は動詞の目的語としての働き (名詞的用法)</p>	<p>A2 缶詰を開けると、焼きたてのパンと同じくらい美味しいです</p> <p>A3 a baker named Akimoto Yoshihiko</p> <p>A4 名詞 (理由: in が前置詞だから)</p> <p>A5 (人を) がっかりさせる</p> <p>A6 秋元さんはそれを聞いてがっかりしました</p> <p>A7 食べるものが乾パンしかないのは気が滅入りました</p> <p>A8 私はあなたに～してほしい</p>	<p>Q2 第1段落3文目の和訳は?</p> <p>Q3 第2段落2文目の主語はどこ?</p> <p>Q4 第2段落4文目の in need の need は何詞?</p> <p>Q5 disappoint の意味は?</p> <p>Q6 第2段落6文目の和訳は?</p> <p>Q7 予習プリントの下線部の和訳は?</p> <p>Q8 I want you to~の意味は?</p>	
30 秒	本文の解説の確認	・学んだことの中で特に大切そうなところをペアで確認	・音読シートを配る間に、学んだことの振り返りをさせる	・音読シートの配布
(まとめの活動) 15分	<p>アウトプットの活動</p> <p>①ポーズを入れて音読 (音源)</p> <p>②各自で練習</p> <p>③オーバーラッピング (音源)</p> <p>④サイトトランスレーション</p>	・アクセントや抑揚に気をつけながら音読を行う	<p>・①～⑥ (⑦、⑧) ごとに指示を出す</p> <p>・④、⑥ (⑦、⑧) のペア活動の際に</p>	・アクセントや抑揚に注意しながら音読できているかを見て回る

	<p>⑤シャドーイング (音源) ⑥ペアでシャドーイング (音源)</p> <p>以下、時間が余った場合 ⑦バックトランスレーション ⑧リテリング</p>		<p>は、ジャンケンで順番を決めさせる</p>	
--	---	--	-------------------------	--